

札幌ラグビースクール
創立40周年記念誌

Sapporo 
Rugby School

40  **TH**
since 1981
Anniversary



開校40周年を迎えて



札幌ラグビースクール
校長 横山 良伸

当スクールは昭和56年に札幌有惑クラブの方々の努力により開校して以来40周年を迎えることになりました。

現在約70名のスクール生を抱える組織となっております。それも長年にわたりご協力いただいた方々の努力の賜物と感謝しております。

この10年、日本のラグビー界ではいくつものうれしい出来事がありました。

リオ五輪の7人制ラグビー予選でNZを破り決勝トーナメント進出、ワールドカップでは前々回大会にて南アフリカに勝利し、日本大会では、アイルランドから勝ち星を挙げ、前回大会では敗れたスコットランドに雪辱しベスト8進出するなど、最近のJapanの活躍は目を見張るものがあります。

そのおかげでラグビー人気も上昇しており、その試合を見てラグビーをやってみたいと思う子供たちも増えている気がします。

新型コロナウイルス感染症による、練習、各種大会中止など子供たちにとっては大変かわいそうな状況が続いておりましたが、もう少しの辛抱かと思えます。

通常の日々が送れる日が来る時まで皆で頑張っていきたいと思えます。皆様ご協力お願いします。簡単ではございますが40周年を迎えてのあいさつとさせていただきます。

【お知らせ】

創立40周年を機に、当スクールの名称を「札幌少年ラグビースクール」から、「札幌ラグビースクール」へと変更いたしました。今後ともよろしくお願いします！



札幌ラグビースクール開校40周年 祝辞



一般財団法人
北海道ラグビーフットボール協会
理事長 津軽 敦志

札幌ラグビースクール開校40周年おめでとうございます。地域に根ざしラグビーの魅力を伝える環境を提供し、多くの子供達を育み、そして活躍してきたことは輝かしい歴史であり、北海道ラグビー界の誇りであり、心から感謝と敬意を表します。

2021年は、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大が全世界に亘り、社会・経済やラグビーの活動にも大きな制約を受けましたが、スクールの次なる進化に向けては記念すべき年となったことと存じます。

スポーツとしてのラグビーは、2019年日本で開催されたワールドカップにより注目され、ラグビー憲章に定める「品位 (INTEGRITY)」「情熱 (PASSION)」「結束 (SOLIDARITY)」「規律 (DISCIPLINE)」「尊重 (RESPECT)」は、ラグビー競技の精神的指針となっており、他の競技と大きく異なることが多くの人に認識され、ラグビーをプレイする子供達から大人まで老若男女、国籍を問わず、レフリーやコーチなど関わる全ての人々に重要で根本的な精神的指針を定めたものです。

ラグビーは、身体接触を伴うスポーツであるため、本来は危険が伴うものでありますが、スクールの子供達もラグビー憲章の定められた、それぞれの精神的指針を学び、友情を育み、人間としても成長していったと願っております。

北海道のラグビーも社会的基盤の醸成とともに成長するものであり、各カテゴリーの活性化は、子供達の成長にあるものと確信しております。

ラグビーを通じた地域の活性化と子供達の育成に長年に亘り尽力され、ラグビーができる喜びや環境の提供を継続されてきたことは、皆さんのラグビーを愛する心が子供達を惹きつけた礎となったものです。

最後になりますが、札幌ラグビースクールが次の10年へ向け、益々発展していくことをご祈念申しあげ、開校40周年のお祝いのことばとさせていただきます。

令和3年10月吉日

ラグビー憲章「5つのコアバリュー」

品位 (INTEGRITY)

品位とはゲームの核をなすものであり、誠実さとフェアプレーによって生み出される。

情熱 (PASSION)

ラグビーに関わる人々は、ゲームに対する情熱的な熱意を持っている。ラグビーは、興奮を呼び、愛着心を沸かせ、世界中のラグビーファミリーとの一体感を生む。

結束 (SOLIDARITY)

ラグビーは、生涯続く友情、絆、チームワーク、そして、文化的、地理的、政治的、宗教的な相違を超えた忠誠心につながる、一つにまとまった精神をもたらす。

規律 (DISCIPLINE)

規律は、ゲームに不可欠なものであり、フィールドの内と外の両方において、競技規則、競技に関する規定、そして、ラグビーのコアバリューの順守を通じて示される。

尊重 (RESPECT)

チームメイト、相手、マッチオフィシャル、そして、ゲームに参加する人を尊重することは、最も重要である。

開校40周年に寄せて



札幌有惑クラブ 会長 鯉淵 正

札幌ラグビースクール開校40周年おめでとうございます。
心よりお祝い申し上げます。

札幌有惑クラブは、昭和38年に発足し現在では120名ほどの部員が在籍する歴史あるラグビーチームです。

クラブにはスクールの校長をはじめコーチ達も入会しております。

札幌ラグビースクールは、当時の有惑クラブの諸先輩達が札幌にも子どもたちがラグビーを楽しめる場所をと、スクールを立ち上げて、部員を勧誘し、練習場所を確保し、そして指導に至るまで部員みんなで助け合って、活動していたと聞いています。

現在 当クラブもスクールも総合型スポーツクラブ「札幌オールカマースポーツ倶楽部」の会員となり、グラウンドの取得を目指して頑張っているところであります。スクールの子もたちとは、合宿の際には有惑メンバーと一緒に練習に参加して、共に汗を流し、体文協やタグラグビー大会のときには手伝いをしながら応援したりと、今日まで協力し合ってきました。もちろんこれからも今まで以上に交流したいと思っています。

昭和、平成、令和と時代の流れによる環境の変化があった中で、たくさんの卒業生を送り出し、スクールの発展にご尽力いただいた方々には感謝の意を表するとともに、スクールで学んだことを誇りに活躍している卒業生、そしてこれから活躍する未来あるスクール生には、札幌有惑クラブ部員一同これからも全力でスクールのサポートを続け、応援していきたいと思っていますので、頑張ってください。

また、有惑クラブには、今年90歳を迎え金色パンツになる先輩が2名も現役で活躍しております。

ラグビーは年齢に関係なく仲間を大切にする楽しいスポーツです。スクール生のみなさんも、ぜひ有惑クラブに入会できるまでラグビーを続けてください。

最後になりますが、札幌ラグビースクールの益々のご発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



札幌ラグビースクール概要

当スクールは、40年にわたり、札幌近郊の子ども達にラグビーの魅力を知ってもらえるよう、コーチ、スタッフが資質の向上に努めながら、安全、安心にラグビーを楽しめる環境づくりに取り組んできました。

今後とも「誰でも、いつでも、どこでも楽しめるラグビー社会をつくる」という「JAPAN RUGBY 2050 活動指針」の目標に貢献できるよう、活動を続けていきます。

【設立】1981年(昭和56年)5月10日

【所属】北海道ラグビーフットボール協会 札幌支部

【指導方針】

幼児・小・中学生に対しラグビーフットボールの練習と試合を通して、体力、気力を養う。さらに団体の中での友好心を育て、個人を尊重できる子どもを育成する。

【活動内容】

- ・年齢と体力に見合った独自のラグビーの練習とトレーニング。
- ・他地区の活動団体との交流試合および大会などへの参加。
- ・幼児・小学生はミニラグビー、中学生はジュニアラグビーを行う。

【主な活動場所】

- ・月寒ラグビー場（札幌市）、野幌総合運動公園ラグビー場（江別市）

【活動時間、年間スケジュール等】

- ・毎週日曜日9時～12時を基本とする。
(試合スケジュール等により土曜日活動もあり。)
- ・夏シーズン（4月下旬～11月上旬）：屋外活動
- ・冬シーズン（11月中旬～4月中旬）：公共施設の体育館活動または雪中

【合宿】

- ・毎年7月下旬に札幌近郊（新篠津村総合運動公園等）において実施

【主な大会】

- ・8月上旬：北海道体育文化協会杯
- ・9月中旬：全道スクール大会
- ・10月中旬：ヒーローズ全道予選（高学年）
- ・北海道選抜の中学生は、東日本中学生ラグビー大会などに参加

※このほか、タグラグビー大会、雪中大会、交流試合等に参加



チームジャージ



エンブレム



40周年記念Tシャツ

【子ども達の努力目標】

- ・ 明るい性格・強い体力を作る
- ・ 約束を守り、みんな仲良く協力する
- ・ 元気に挨拶ができる

【生徒心得十か条】

- ①自分の健康管理は自分でしっかり行う
- ②感謝の気持ちを持つ
- ③ルールを守る
- ④挨拶を大きな声で行う
- ⑤常に大きな声を出す
- ⑥気持ちを切り替える
- ⑦自分の用具、チームの用具を大切にする
- ⑧目的を持って練習する
- ⑨試合相手、レフリーを尊敬する
- ⑩仲間を大切にする



【年会費】

17,000円

※2021年現在の状況です。

※練習ジャージ、短パン、ソックスの指定あり。ヘッドキャップ、スパイクは各自手配
※合宿、遠征費用などは別途負担となります。またイベント等の状況によりやむを得ず別途会費を徴収させていただく場合もあります。

※このほか、指定の傷害保険に加入いただきます。

【父母会費】

2,000円（第二子以降は1,000円）

2021年度役員・コーチングスタッフ

【役員】

校長：横山良伸 副校長：山本清和 顧問：永山雅昭 事務局長：菅原 均
主務：石井孝典（中学生）、鞠子宜紀（小学生） 会計：宇澤美由記 監査：戸沼元希

【指導委員】

○小学生

統括ヘッドコーチ：山本清和（R/C）

高学年：高谷友晴ヘッドC（C）、清水健吾（C）、松原 武（C）、寺内 進（R/C）、
後藤貴子（S/C）

中学年：山本英一郎ヘッドC（C）、柴田健佑、田中政龍（R）、加茂裕一

低学年幼児：西山尚宏ヘッドC（C）、横山良伸（D/C）、岡本 聡

○中学生

ヘッドコーチ：村上欣弥（C）

コーチ：石井孝典（C/R）、戸沼元希（C）、中野正寛（R/C/S）、石川信行、
梶山哲雄（C）、宇澤正典

スポットコーチ：井上泰男（R/C）、鞠子宜紀（C/R）

○チームレフリー：菅原 均（R/C/S）

※R印はレフリー、S印はセーフティアシスタント、C印はコーチ資格所有者、D印はチームドクター





スクールの一年の様子

新型コロナウイルス感染症の影響により、当スクールの活動も2020年から大きな制約を受けています。

このページは、2018～19年の通常年の活動状況を掲載しています。
一日も早くこうした日常に戻ることを願っています。



2019.4 開校式(かでの2. 7)



2019.5 練習(新篠津村総合運動公園)



2019.5(北海道教育研修所)



2018 ラグビーフェスティバル(月寒ラグビー場)



2019.7 夏合宿(新篠津総合運動公園)





2018.8 体育文化協会杯(野幌総合運動公園ラグビー場)



2018.8 遠征(遠軽ラグビー場)



2019.9 スクール大会(小樽望洋ラグビー場)



2018.10 北海道バーバリアンズJr定期戦(定山溪グランド)



2018.10 お父さん、お母さんとの対抗戦(北海道教育研修所)



2018.11 サントリーカップ



2019.2 雪中ラグビー大会



2019.3 卒団式(かでる2. 7)

スクールの歴史(創設の頃)

当スクールは、1981年5月10日に発足しました。

札幌有惑クラブの皆さんが、ラグビーの発展のために、札幌市における新たなスクールの設立を目指し、クラブ内で議論を繰り返して、さまざまな準備を経て、ゼロから立ち上げたとされています。

初代校長の越智康行氏が熱心に自衛隊真駒内駐屯地の体育館を借りれるよう手配するなど、運営やグラウンドの確保は、札幌有惑クラブが担当しました。企画運営は、朝日新聞の堀場寿男氏、経理はHTBの山木周治氏が担当され、このお二人が報道機関ということもあり、1981年4月に大規模な部員募集広報を行ったそうです。

1981年5月10日、自衛隊真駒内駐屯地体育館において、応募者77名、父兄約50名、有惑クラブ員25名が集まり、後援の朝日新聞、HTBをはじめ報道数社が取材に訪れる中、盛大に発会式が開催されました。

この写真は、1984年の定山溪小学校グラウンドにおける夏合宿の様子です。当時は、小学校3年生から中学生までで、100名ほどのスクール生が所属していました。



以来40年間、多くのコーチ、スタッフが指導、運営に携わり、子ども達にラグビーボールで元気に遊んでほしいという思いをつないできました。

次の10年間も、さらに魅力的なスクールに発展させていきたいと思えます。

最近10年間の様子



2010



2014



2017

全国のラグビーキッズ応援サイト『Rkids』ラグビーキッズ

【インタビュー】第90回▶札幌ラグビースクール（北海道）

札幌に根差し、地域の教育力を担うスクールを目指して

1981年、札幌有感のメンバーにより創立され、2021年で開校40周年を迎えました。練習は毎日曜日の午前中が基本で、夏シーズンは屋外で、冬シーズンは体育館で練習し、雪中ラグビーも楽しんでいきます。「生徒心得十カ条」は次のような言葉が並びます。「自分の健康管理は自分でしっかり行う」、「感謝の気持ちを持つ」、「ルールを守る」、「挨拶を大きな声で行う」、「仲間を大切にする」。どんなスクールなのか、副校長の山本清和さん（59歳）にお話を聞きました。（インタビューは村上晃一さん）

子どもたちをゲームやスマホから解放、外で体を動かす楽しさを知ってほしい

村上 山本さんがラグビーに関わったきっかけを教えてください。

山本 進学した札幌旭丘高校は地元なので顔見知りの先輩が多く、ラグビー部の先輩が「ラグビーやらないか」と誘ってくれて始めました。学習院大学入学後は、東京の学生生活を満喫しようと思って最初の1カ月くらいは遊んでいたのですが、すぐに飽きてしまって、6月にラグビー部に入りました。就職先は富士重工（スバル）で、栃木県の宇都宮にある製作所に配属になりました。そこに栃木の社会人リーグに所属するラグビー部があって、5、6年プレーしました。

村上 いつ北海道に戻ったのですか。

山本 父の経営する会社を継ぐために30歳を過ぎて地元に戻りました。2000年に長男（秀洸）が生まれて、小学1年生になるときにラグビースクールに入れることにしました（2007年）。高校の先輩から北海道バーバリアンズに誘われたのですが、北海道BBは土曜日に練習しています。うちの会社が土曜日は仕事なので、日曜日に活動する札幌少年ラグビースクール（RS）に通うことになりました。そこで、コーチの方から「お父さんも経験者なら一緒にやりましょう」と声をかけてもらいました。

村上 そのとき、札幌少年RSは何名くらいいたのですか。

山本 40名くらいですね。真面目にラグビーに取り組んでいる印象でした。2015年のラグビーワールドカップの日本代表の活躍で生徒数が増え、2019年でまた増えて、現在は約70名です。

村上 指導上で大事にしていることはどんなことですか。

山本 怪我をしないように安全第一に考えています。幼児から中学生までいますので、学年によって違いはありますが、まずはラグビーを楽しんでもらうことを大切にしています。また、コロナ禍で子どもたちが自宅にいる時間が多くなり、暇があればゲームをし、スマホをいじっている。そういうものからできるだけ離れ、外で体を動かす楽しさを知ってほしいと思っています。バーチャルではなく、リアルな痛さ、辛さ、苦しさを、身をもってわかってほしいのです。ラグビーはヒューマン・スキルが上がります。相手の立場に立って考えられるようになるし、痛みを分かり合えるようになると思います。

村上 スクールの方針として、「勝利至上主義ではないが、出場する大会では常に優勝を目指し、真摯に取り組む」とありますね。

山本 子どもは競うのが好きで、相手に勝ちたいという気持ちを持っています。参加するのであれば勝とう、優勝を目指そうと言っています。それが自然だと思います。

村上 生徒の成長を実感したエピソードはありますか。

山本 どのスクールも同じだと思いますが、練習の中にひとつくらいは肉体的に辛い練習があります。体力があって先にゴールした子が、遅い子を励まし応援する。そんな仲間意識が生まれるところを見ると成長を感じます。また、コーチが言おうとしていることを子どもたち同士が話しているときもあり、自ら考えてプレーしているところです。

村上 たとえば、どんなことですか。

山本 いまはコーチが試合中には声を出さないようにして、ハーフタイムだけ話をするのですが、パワーあるチームに劣勢になっているとき、タックルは一人で行かず2人で入るようにアドバイスしようとしたら、子ども同士で、「2人で入ろう」と話していることがありますね。もっと先のことを話していることもあります。

ラグビーは甘いスポーツではない 大切なのはそれをみんなで乗り越えること

村上 山本さんが指導を続けるモチベーションは何ですか。

山本 私は娘が3人、息子が1人で、長い間、PTAの役員をしていました。札幌市PTA協議会の会長、日本PTA全国協議会の副会長、理事なども務めました。学校の先生や、教育関係者の話を聞いていると、最近では地域の教育力が落ちてきているといいます。ラグビーに限らず、スポーツ少年団の一つの役割として、地域の教育力を担うということがある。私も含めて指導に携わっている人たちは子どもが好きだし、健やかな成長を願っています。将来、日本の社会を背負って立つような自立した大人に成長してもらうための手助けをしたいと思っています。

村上 札幌少年RSは、2022年度から「少年」を外すことにしたそうですね。

山本 最近では女子選手も多いし、10年以上前から議論になっていたことです。しかし、法律関係者の意見では少年法というのは男子を指すのではないという話があって、どうしようと迷っていたのですが、一般的な感覚として少年、少女という言い方を使いますから、性別を区分する名称は変えようということになりました。

村上 札幌ならではの活動はありますか。

山本 2月に雪中ラグビー大会を開催することもあります。ラインは赤い絵具やスプレーなどで引きます。雪の上でやると走りにくいので、足の速さ遅さが関係なくなります。タックルされなくても転びますから、面白いですよ。意外にハードなんですよ。

村上 社会人の試合も行われる月寒ラグビー場でも練習されるのですか。

山本 月寒は月に一度くらいで、江別市の野幌運動公園や、大学のグラウンドをお借りすることもあります。我々は決まったグラウンドは持っていないので、いろんな場所で練習しています。今後、札幌市で運動公園を作る計画があるようなので、そこを使わせていただけたらいいなと思っています。

村上 生徒数はさらに増やしたいですか。

山本 増やしたいのですが、スタッフが足りないのが現状です。以前はラグビー経験者の保護者の方が多くて、そのままコーチになっていただくことが多かったのですが、最近は、子どもがラグビーをやりたいと言ったから入ってくる人がほとんどです。ラグビー経験者が少なく、すぐにコーチになってくださる保護者が少ないのです。中には、未経験者でもコーチ資格を取るお母さんもいますが、スタッフも増やしていきたいですね。

村上 体作りの部分もしっかりやっていらっしゃるようですね。

山本 ラグビーは甘いスポーツではありません。コンタクトプレーは痛いし、楽しくて面白いだけのスポーツではない。生徒募集をするときには、辛いことも痛いこともあるけど、それをみんなで乗り越えていきましょう、という誘い方をしています。それでも、卒業後に高校でもラグビーを続けてくれる子が多い。人数の少ない高校でもラグビー部に入り、合同チームで中心的な役割をする子もいます。

村上 それは嬉しいですね。厳しいスポーツだということを強調される理由はありますか。

山本 実は僕が高校1年生の11月に、1年上の先輩が試合中に亡くなる事故がありました。悲惨な事故を目の当たりにして、人をラグビーに誘っていいのか、自分のやっていることはいいことなのかと、40年以上自問自答しています。ラグビーをしていると大きな怪我をすることも。それを十分に分かった上で、そういう目に子どもをあわせないように意識しながら指導しています。だから、しっかり鍛えなければいけないし、体を丈夫にして、辛いことも乗り越えてもらいたいのです。

村上 今後の目標を聞かせてください。

山本 日本のラグビーは2019年のRWCで人気が出ましたが、札幌市内で札幌少年ラグビースクールの存在をどれだけ知ってもらっているかといえば、認知度が高いとは言えません。まずは札幌市民に対して認知度を高めたいです。同時にラグビーを広めていきたいです。そして、横浜ラグビースクールや、芦屋ラグビースクールのように、全国の子どもたちから憧れられるような、スクールになりたいし、なっていってほしいと思っています。

祝！第14回リポビタンヒーローズカップ決勝大会出場

高学年は、ヒーローズ北海道予選を勝ち抜き、2022年3月、全国大会に出場しました。創設以来、初のヒーローズ全国大会出場を果たし、スクールの歴史に大きな一歩を記してくれました。今後も全国大会を狙えるよう次の世代を育成していきます！！

◆「第14回リポビタンヒーローズカップ北海道大会」 (2021.10.30-31 小樽からまつ公園運動場)

【予選プール】	【決勝プール】
札幌RS VS 函館RS 30-20	札幌RS VS バーバJr 35-10
札幌RS VS 遠軽RS 30-0	札幌RS VS 山の手RS 45-10
札幌RS VS 帯広RS 70-0	



◆リーチ・マイケル選手オンラインアカデミー(2021.12.12)

全国大会への出場決定後、大正製薬、電通から本アカデミーへのご案内をいただきました。リーチマイケル選手から、激励をいただき、選手たちの様々な質問にお答えいただきました。



◆多くの皆様からご支援をいただきました

全国大会に向けて、スクールのOB会露木会長様をはじめ、カンタベリーショップ札幌様、札幌オールカマースポーツ倶楽部様、札幌有感クラブ様、当スクール横山校長先生など、多くの皆様から、激励とお祝いをいただきました。



◆冬季も室内練習場をお借りし、全員で準備しました



◆第14回リポビタンヒーローズカップ決勝大会
(2022. 3. 26-27 日産スタジアム (横浜国際総合競技場))



【初日：Dブロック】

札幌RS VS 杉並RS (東京都)
0-40

札幌RS VS 倉敷RS (岡山県)
15-40

【2日目：シールドトーナメント】

札幌RS VS 兵庫県RS
5-50

札幌RS VS 伊賀良RS (長野県)
20-30

コロナ禍で大会が延期され、屋外での練習もできない環境の中、選手達は、モチベーションを保ち、準備してきました。

そして、二日間にわたり、全国の強豪チームと戦い、素晴らしいプレーを見せてくれました。

選手達自身にとって大変貴重な経験になったことはもとより、スクール全体に大きな勇気を与えてくれました。



SHIZUOKA BlueRevs



静岡ブルーレヴズを応援しよう！

静岡ブルーレヴズの舟橋諒将選手は、札幌ラグビースクールのOBです。

日本最高峰であるJAPAN RUGBY LEAGUE ONE のディビジョン1で、日本をはじめ、世界のスター選手と戦っています。

静岡ブルーレヴズ、そして、舟橋選手をスクールみんなで応援しましょう！！

※ 静岡ブルーレヴズは、静岡県をホストエリアとする、JAPAN RUGBY LEAGUE ONE ディビジョン1に参画するラグビーフットボールクラブです。2021年までトップリーグに参画していたヤマハ発動機ジュビロが前身です。



写真提供：静岡ブルーレヴズ



プロフィール

◇舟橋 諒将 ふなはし りょうすけ

◇1997/01/05 25歳

◇186cm/106kg

◇札幌少年ラグビースクール

札幌山の手高等学校

明治大学

静岡ブルーレヴズ(旧:ヤマハ発動機ジュビロ)

◇代表歴 7人制高校日本代表、

U18高校日本代表、ジュニアJAPAN



舟橋選手からスクール生へのメッセージ

札幌ラグビースクールの皆様

静岡ブルーレヴズ(旧:ヤマハ発動機ジュビロ)でプレーしています舟橋諒将です。

この度は札幌ラグビースクール開校40周年を迎えられた事、心よりお祝い申し上げます。

私は小学生3年生から中学3年生まで約6年間札幌ラグビースクールでプレーしていました。

私がラグビーをする上で今でも大切にしている事が2つあります。

1つ目は周りの人へ感謝の気持ちを持つ事です。今ラグビーができる環境にいる事は当然ではありません。日々の食事を作ってくれる両親がいて、ラグビーを教えてくれるコーチがいて、一緒にプレーする仲間がいて初めて成り立ちます。それはラグビースクール、高校、大学、社会人になっても同じです。自分がプレーできるという事は周りにサポートしてくれる人達がいる事を忘れない気持ちが大切です。

2つ目は仲間を想う事です。ラグビーは15人でプレーするスポーツ、野球やサッカーよりもグラウンドでプレーする人数が多いです。そのため仲間と繋がり合う事は必要不可欠なスポーツだと思います。また野球は1人でホームランを打ち、1人でピッチャーとして抑えれば勝ててしまいます。しかしラグビーは1人で勝つ事は不可能であり、仲間と協力したプレーで初めてトライする事ができます。ラグビーのように自分の身体を犠牲にボールを前に出しトライを取りみんなですべて喜びます。これ以上の自己犠牲の精神があるスポーツは他にはありません。ラグビーはそれだけ素晴らしいスポーツですし、それに関わる仲間、サポートくださる人それだけ素晴らしい方々だと思います。この仲間との繋がりは大切です、一度ラグビーで繋がった仲間は一生ものになるはずですよ。

私はこの2つを日頃から大切に過ごしています。スクール生の皆さんも日頃からこの気持ちを少しでも持ってくれれば嬉しいです。

私が小学生の頃に描いていた夢は「ラグビー選手になる」でした。夢は諦めなければ必ず叶います！私も1人のラグーマンとして今の夢である日本一、そして日本代表という夢を諦めずにプレーしています。スクール生の皆さんも夢を持ち続けて頑張ってください！！

40周年誌発行にあたり

多くの皆様方に支えていただき、当スクールも40周年の節目を迎えることができました。この間に多くの卒業生も輩出し、最近ではその卒業生たちもコーチとしてグラウンドに出てきてくれるようになり、スクール像のあるべき姿ができてつとあると感じています。

私が当スクールの事務局を引き継いだ2014年シーズンは、選手数もすべてのカテゴリーを合わせても30名強、どのカテゴリーも単独チームが組めない状況でした。

その後、2015年・2019年のラグビーワールドカップの好影響もあり、近年は60～80名程度の選手数で推移しています。諸先輩から引き継いだラグビースクール運営のバトンを、40周年を超えて継続することができ、ホッとしています。

40周年の節目に合わすように、2021年度シーズンの高学年は、北海道大会で優勝し、小学生高学年の全国大会である「ヒーローズカップ決勝大会」へ、北海道代表として出場を果たしました。横浜の日産スタジアム（2019年RWC決勝会場）への遠征に際しましては、多くの方の寄付やご支援を賜り、あらためて御礼を申し上げます。

私事ですが、事務局の傍らチームレフリーとして関東協会B級レフリーを取得し、ヒーローズカップ決勝大会も、レフリーとして参加させていただくことができました。選手たちとともに、大変貴重な経験をさせて頂きました。

今後とも多くの選手たちのため、またスクールのさらなる発展のために携わっていきたいと考えています。

今後はスクール創設50周年に向け、皆様方のさらなるご支援・ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

札幌ラグビースクール 事務局 菅原 均

2022年5月
札幌ラグビースクール
創立40周年記念誌
製作委員会